

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第20号 2020. 9. 6 発行

市民ボランティア『縄文住居をつくる会』

第2フェーズに入り、市民ボランティアとしての活動が始まりました。作業自体は今までと変わるものではありませんが、さっそく市民ボランティアの人たちとの共同作業もあり、また新たな活動フェーズになってきたようです。我々よりも前からボランティアとして縄文住居建設に携わってきた方もいらっしゃいますが、「作業は初体験」という人も多いようです。一棟まるまる建設した経験をもつ我々には、縄文作業の多くの経験に加えてノウハウもあり、我々に期待されているところも大きいようです。

1) 4号棟（7本柱住居）作業の再開

雑草に覆われてしまっていた4号棟の竪穴の草引きからの作業です。一応、7本の柱を立ててはありましたが、全体的に見直してみると、柱の間隔がまばらでバランスが悪い箇所や、柱としては少し細いものもあり穴の掘り直しから再開です。『柱が7本になると梁の木材はどのように乗せる？』前回と違った要素が出てくると、頭の体操が必要になってきます。



今までの4本柱の住居でも中に入ると結構広く感じていましたが、やはり7本柱の住居となると床面積が広がった分、垂木も相当長いものが必要となることがわかってきました。前回の経験から横木に結び付けてためには、できるだけ真っ直ぐな木材が良いことは分かっていますが、同時に適した樹木を見つける難しさも経験しています。住居が大きい分多くの本数を揃える必要もあり今後の材料集めに苦労しそうです。

2) 伐採作業

細い柱の代わりとなる樹木を探して伐採しました。今回はクリの木がどれくらいで伐採できるか？クリの樹皮が使えるか？の実験も兼ねて伐採です。石斧作業に要した時間はコナラの時と同じくらいでしたが、倒れる前兆もなくいきなり傾いで倒れてしまい、樹木によって性質の違いが明らかになりました。

千葉や埼玉から来ていた女性や子供たちとも一緒に伐採作業です。最初は恐々振っていた石斧も孫に教えるじいさんの指導宜しく？だんだん様になってきます。



女性でも軽めの石斧であれば十分伐採作業に加わることができます。縄文時代の女性たちも一緒になって住居の建設作業に参画したのでしょうか？

縄文時代の生活様式を想像していると、「だんだん嵌っていってしまうんです・・・」と言っていた女性の声にも納得できるような気がしてきます。いつもの同じメンバーだけでなく、初めて会う市民ボランティアの方たちと一緒に話をし、作業をすることで、われわれも新たな刺激を貰えるかもしれません。

★ まだまだ日差しは強く、暑い日もあります。休憩時間は木陰で多めに過ごしますが、それぞれの口には休みがありません。今まで以上に雑談が弾み冗談が増えてきました。作業だけでなく、こうした会話が新型コロナの影響で長引く自粛生活をリフレッシュさせてくれるのではないかと思います。



★ 縄文住居の周りには赤トンボが飛び交い、すっかり秋模様です。毎日のように雷注意報が出て、天気予報に雨マークが出ている日が多いですが空振りの日もまた多いのがこの辺りの天候の特徴でしょうか。木陰を吹き抜ける風が気持ちよく感じられる季節です。最近では亜熱帯化が進んだのか、なんだかあまり四季が感じられなくなってきたような気がします。

短く短い秋を少しでも楽しみに梅之木遺跡まで足を運んでみてはどうでしょう。

<お知らせ>

作業に来られる時は、遺跡の下の空き地に駐車をお願いしていましたが、“道路に出る際見通しが悪く危ない”という意見があり、上の駐車場を利用させてもらえることになりました。白線内の駐車スペースは一般の方を優先として、できるだけ公園側に縦列駐車ですべての車を駐車をお願いします。